

みず おち うん とう
水 落 雲 涛 略 系 図

(①生 没 ②名 ③師 弟)

水落元簡

- ① 北条農家に生れ、柏崎今町に移る。一七七六〜一八三〇、五五歳で没。
- ② 字は子廉、子業。
- ③ 柏崎の医師玉井元倫に学ぶ。
江戸に出て青木昆陽に医術を学び、泉豊洲に経史を受ける。
・帰柏後医家を開業。

雲 涛

- ① 柏崎今町(西本町)住、医師・漢詩人。一八一三〜一八七五、六三歳で没、墓は西本町浄土寺。
- ② 名は恭倩、字は良輔、号雲涛・二顛。きょうせん にてん
- ③ 幼にして原松洲に学び、京にাগり医を竹中子讓に、詩文を梅辻春樵の織銀社に学ぶ。
・帰柏して医業を継ぐ。
・玉井海嶠と従兄弟。

巢 南

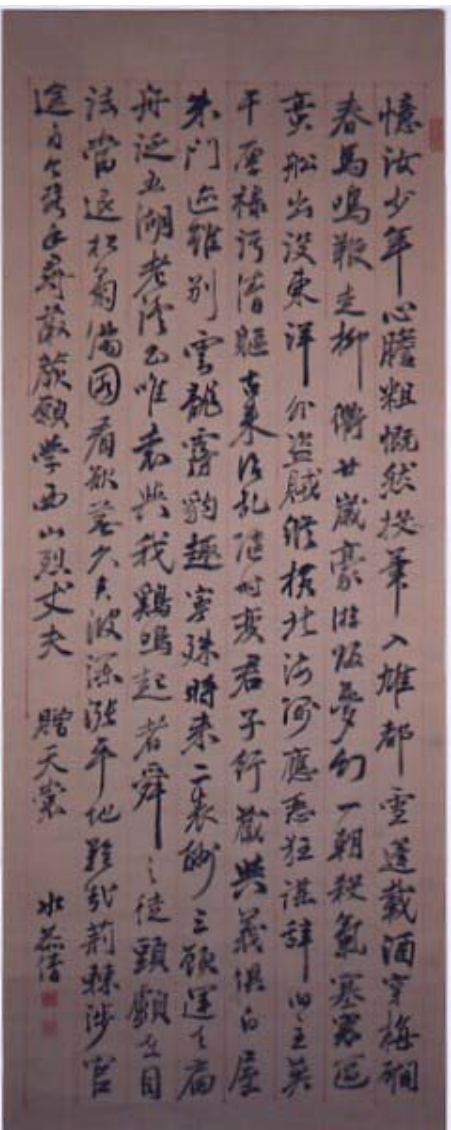
- ① 一八六三、四六歳で没、墓は江洲沢波郡常円寺。
- ② 名は紳、字は玉佩、通称六郎、号巢南。
- ③ 京に出て詩文を梅辻春樵に学ぶ。
・認められて彦根藩の大塚雲渦の養子となる。
・桜田門事件に関した彦根藩家老の責任を負って自決。

柏 洲

- ① 江戸住、一九〇四、八〇歳で没。
- ② 名は練、字は天裳、通称七郎、号柏洲。
- ③ 江戸梁川呈巖に学ぶ。
・明治維新後官界に入り、鉦山寮小令史。
・退官後詩画を余戯とす。

梅 か ん

- ① 一八五三、二五歳で没。
- ② 名は孝倩、字は仁祖、通称八郎、号は梅かかん。
- ③ 江戸に出て昆泰仲について医学を研修。



〔参考文献〕 柏崎市史、柏崎のいしづみ、柏崎文庫

勤 斎

- ① 一八九三、死亡。
- ② 名は坤義の直吉、号碧^{へき}た^ん。
- ③ 明治一八、九年の頃同志と鷗〇江吟社を起す。

鷗 水

- ① 一八八五、二八歳で没。
- ② 名は璋之助、字は仲珪、号鷗水・時習斎主人。
- ③ 新潟医学校で学び海軍軍医となる。
・扶桑艦に乗り組み、熱病にかかり死亡。

